

令和6年度（2024年度） ケアハウスネバーランド 事業報告書

1. 施設の概要

事業の種類 老人福祉法に基づくケアハウス事業
 定 員 20名（2025年2月～ 15名）
 施設の名称 ケアハウス ネバーランド

2. 職員配置の状況

令和7年3月31日現在

区分	施設長	事務員	生活相談員	介護職員	調理員	計
基準数	1		1	1	1	4
専任		1	1	2	3	7
兼務	1					1

3. 入居者処遇状況

① 入居者日課表

時 間	項 目
8 : 0 0	朝 食
1 0 : 0 0	レクリエーション・・・・・・・・火 健康体操 木 見聞クラブ 土 楽々クラブ
1 2 : 0 0	昼 食
1 4 : 0 0 ～	水曜日 健康相談
1 5 : 0 0	おやつ（木・土曜日）
1 8 : 0 0	夕 食

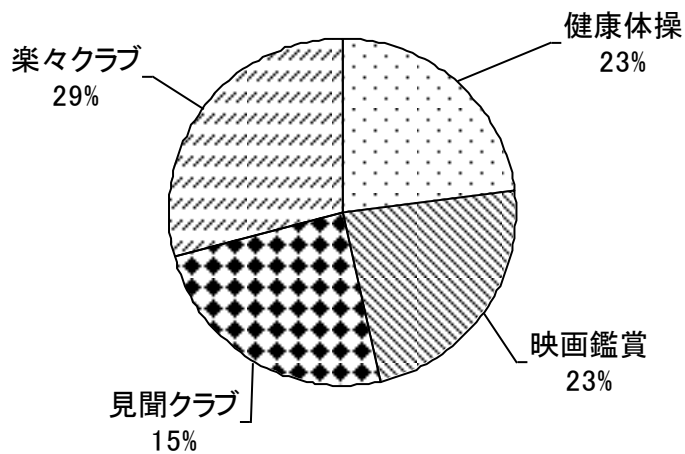
活動内容

- ・入居者会議（第1水曜日）
- ・映画鑑賞会（第1日曜日）
- ・訪問散髪月（1回）

② クラブ別参加状況

クラブ名	平均参加者	内 容
健 康 体 操	3. 5 名	音楽や道具を利用した体操
映 画 鑑 賞	3. 5 名	映画ビデオの鑑賞
見 聞 ク ラ ブ	3. 7 名	ニュースや新聞の内容を読み話し合う
楽 々 ク ラ ブ	4. 4 名	園芸・壁面飾り・折り紙などの創作活動
外 出	中 止	四季折々の花の観賞や外食を楽しむ

※ヘルパー利用者、受診・入院中のため参加出来なかった人を含む総人数
(年間平均 4 名)

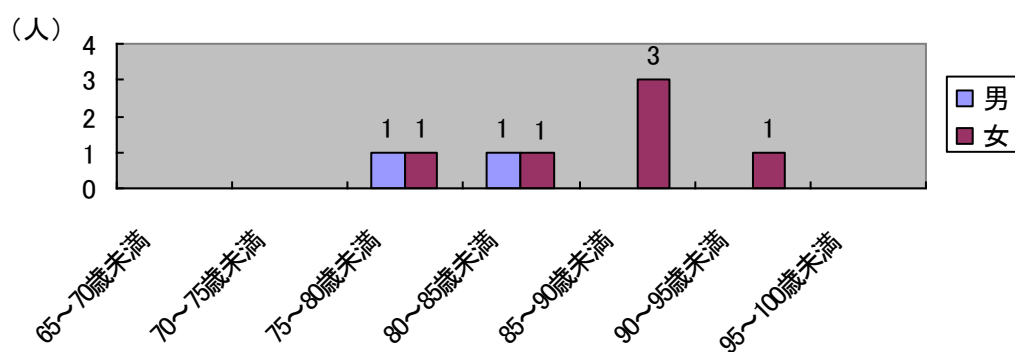


入居者の状況

① 年齢別・性別状況（2024年3月31日現在）

	入所者数 (名)	平均年齢 (歳)	最高年齢 (歳)	最低年齢 (歳)
男	2	78	82	75
女	6	86	92	80
全体	8	86	92	75

	男	女	全体
75～80 歳未満	1	1	2
81～85 歳未満	1	1	2
86～90 歳未満		3	3
91～95 歳未満		1	1
96～100 歳未満		0	0
全体	2	6	8



② 要介護認定状況

	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2
2024 年	1	2	2	2	1
2023 年	0	1	3	6	2
2022 年	2	1	6	3	1
2021 年	1	1	5	7	1
2020 年	1	5	6	2	0

2024 年 平均介護度 支援 2

2023 年 平均介護度 介護 1

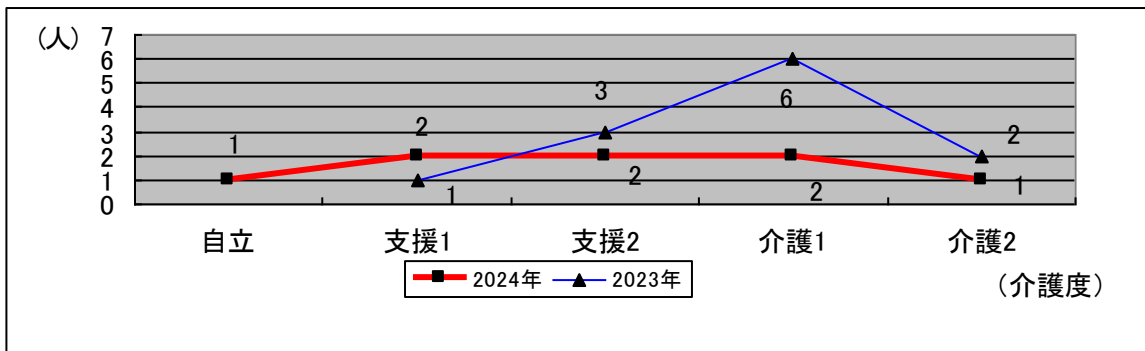
2022 年 平均介護度 支援 2

2021 年 平均介護度 介護 1

2020 年 平均介護度 支援 2

2024 年度は介護度が低い方の入居があり平均介護度が下がった

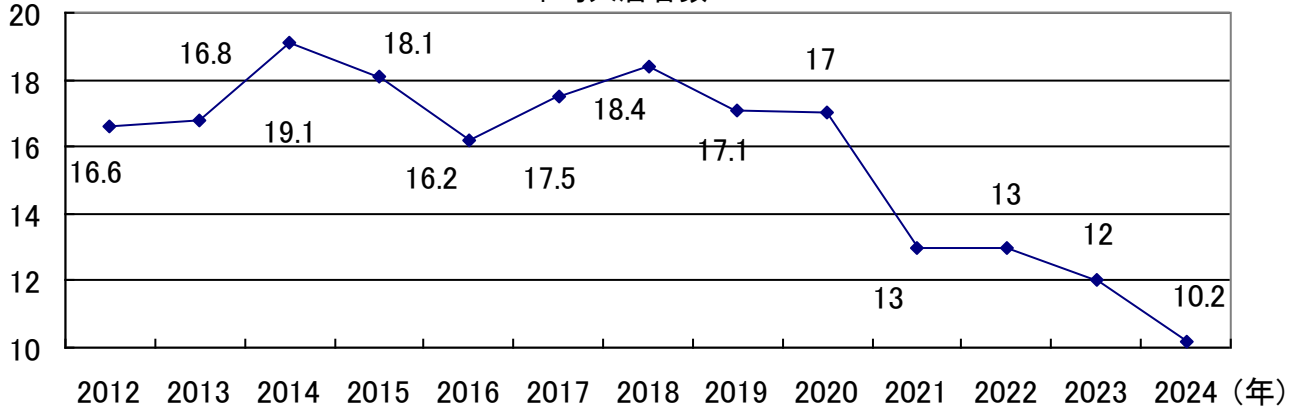
介護度



③ 年度別平均入居者数（過去 13 年推移）

単位:人

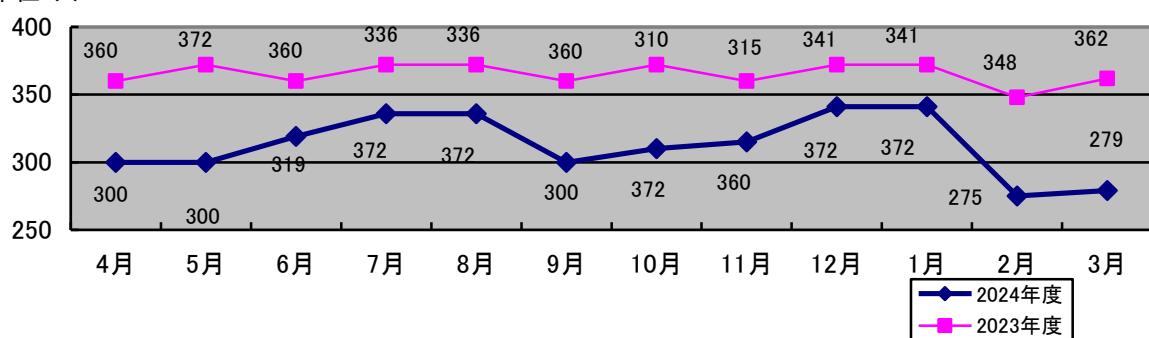
平均入居者数



月別入居者数 令和 5 年(2023)年度

単位・人

月別利用者数



2024年度は延べ人数が3,752名に対し、2023年度延べ人数4,382名で、年間で630名減となっている。
一日平均1.7人減となっている。

5. 入居者処遇報告

- ・季節を通して感染症予防のため、館内の消毒や換気だけでなく、すべてのケアハウス入居者及び訪問者の検温、体調確認を行うことにより、新型コロナウイルスやインフルエンザなど感染症を予防することができた。
- ・クラブ活動では、点数を競うゲームは、会話も楽しめ、グループで協力しながら、楽しそうに参加できるので、継続していく。
- ・危機管理として災害時の危険性を説明し、避難訓練に参加していただくことで入居者の災害に対する危険意識を高めることができた。
- ・入居者が選んだ映画の鑑賞会を行ったあと、入居者同士で映画の余韻に浸りながらコミュニケーションを取ることで入居者間の交流を深めることができた

6. 目標達成率

目標	年間平均入居者数 13名
結果	10名
達成率	76%
令和6年度実績	延べ利用者数3752名

2025年度は入居 2名
退居 4名

退居内訳は当法人の特別養護老人ホーム1名、ショートステイ1名、グループホーム1名、他施設入所1名（家族が近くに住んでいるため。）であった。
ケアハウス退居後もネバーランドの施設にスムーズに入所できるよう調整を行った。

地域包括や他居宅介護支援事業所から紹介があったものの、保証人がいない方が数名おられた為、契約には至らなかった。

当法人の居宅介護支援事業所のケアマネジャーを通じて、医院、クリニック、地域包括支援センターにパンフレットを置かせて頂くよう調整できた。

<分析>

至急の入居の希望をされる方が数名おられたが、ケアハウスの入居はご家族が市に提出していただく書類の準備や、入居前面談、契約など最低でも1週間はかかるので、1.2日では入居できないため、入居をあきらめる方がおられた。

入居希望者の家族は一人暮らしに不安があるが、入居希望者は知らない場所で、知らない方たちと生活するというイメージが出来ず、住み慣れた家での生活を多少頑張っても、一人で生活しようとされている。

また、現在はホームヘルパーや給食宅配サービスのようなサービスや社会資源が豊富にあり、当法人の自立型ケアハウスと同様の生活が自宅で継続して可能となっている。

そして、入居されても、高齢のため環境の変化から他の居室に夜間でも訪室したり、日中も食事の時間が分からないなどの認知症状が現れる方もいらっしゃるので、家族に1.2泊して頂いたり、入居前に暫くショートステイを利用していただき、様子を見せていただくなどの対応を考えていく必要がある。

入居者が安定したケアハウス生活を始めるためにも、入居前の自宅訪問にて家族と本人からの聞き取り調査や生活環境の観察を十分に行うことにより、利用者の状態把握に努めるようにする。

入居者の要介護度の重度化に伴い、救急搬送のリスクも高くなってきている。救急時には家族が付き添っていただく必要があることを再度説明することにより、家族の理解を得ると共に、残された入居者の安全が確保できるようにする。出来るだけ、救急搬送のリスクを下げるためにも毎日のバイタルチェックで、体調変化を早期に発見できる様にし、早めの受診で症状の重症化を防ぐとともに家族と連絡を密に取ることで、信頼関係を築くと共に、入居者の現状を家族に知ってもらえるようにする。